

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	都留文科大学
設置者名	公立大学法人 都留文科大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
文学部	国文学科	夜・通信	19	0	30	49	13	
	英文学科	夜・通信			28	47	13	
	比較文化学科	夜・通信			18	37	13	
	国際教育学科	夜・通信			18	37	13	
教養学部	学校教育学科	夜・通信	0	0	84	103	13	
	地域社会学科	夜・通信			48	67	13	
	比較文化学科	夜・通信			0	19	13	
	国際教育学科	夜・通信			4	23	13	
(備考) ・令和6年度入学者は新課程。令和5年度までの入学者は旧課程。新旧同時限開講。 ・文学部比較文化学科および文学部国際教育学科は令和6年4月より募集停止。 ・教養学部比較文化学科および教養学部国際教育学科は令和6年4月より募集開始。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.tsuru.ac.jp/site/kyanapasuraifu/367.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	都留文科大学
設置者名	公立大学法人 都留文科大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.tsuru.ac.jp/site/jouhou/345.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	現職 学校法人角川 ドワンゴ学園理事長	R5.4.1～ R7.3.31	経営計画、人事
非常勤	前職 都留市職員	R5.4.1～ R7.3.31	労務、財務
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	都留文科大学
設置者名	公立大学法人 都留文科大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
○授業担当教員が決定され次第、以下の項目について授業担当教員が記載する。ただし、統一シラバスの場合は、科目責任教員が記載する。	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の到達目標及びテーマ・授業の概要 ・ディプロマ・ポリシー ・授業計画 ・評価方法 ・テキスト ・参考書 ・準備学習 ・オフィスアワー ・実務経験の概要 ・実務経験と授業科目との関連性 	
○公表時期：令和6年3月中旬	
授業計画書の公表方法	https://essyllabus.tsuru.ac.jp/syllabus_ref
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

○以下の都留文科大学における成績評価基準等に関する規則に基づき、実施している。

(成績評価基準)

第3条 成績判定は、平素の学修状況、学修報告、学習記録レポート、論文、試験等多様な要素の中から、それぞれの授業科目の形態、目標及び内容に応じて、できる限り複数を選択して行う。この場合において、レポートの課題設定や試験の内容に、受講及び受講のための学習準備を通して得られた学習成果が成績評価に適切に反映されるように工夫する。

2 評価基準は、次のとおりとする。

判定	評価	評点等	GP	評価基準
合格	S	90点以上 100点以下	4	学習到達度が特に優秀な水準で到達目標に達している。
	A	80点以上 89点以下	3	学習到達度が優秀な水準で到達目標に達している。
	B	70点以上 79点以下	2	学習到達度が良好な水準で到達目標に達している。
	C	60点以上 69点以下	1	学習到達度が到達目標に達している。
不合格	F	59点以下	0	学習到達度が到達目標に達していない。
	H	放棄	0	評価することができない。
認定	N	認定	対象外	成績の評価をせず単位の認定のみを行う。

(成績評価基準及び方法の周知)

第7条 各授業科目の成績評価の基準と方法は、シラバスに明記するとともに、各授業において説明し、特に、到達目標と評定との関係を、授業の内容に基づいて具体的に説明する。

(授業科目間での成績評価基準及び方法の調整)

第8条 名称や内容を同じくする授業科目が複数開講される場合は、必要に応じて、担当教員間で成績評価の基準や方法に差が生じないように、相互に調整する。この場合において、科目を開講する学科等が指示する。

(卒業論文の評価)

第9条 卒業論文については、オリエンテーション等を行い、成績評価の基準と方法を明確に説明し、成果に応じた適切な成績評価を行う。

2 成績評価に当たっては、論文内容はもとより、審査等における発表の仕方や応答など、その他の要素も勘案する。

(説明責任)

第10条 成績評価に関する学生の質問及び疑問等には、アカデミックハラスメントとならないよう、適切に対応しなければならない。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

○以下の都留文科大学における成績評価基準等に関する規則に基づき、実施している。

(定義)

第2条 この規則において「グレード・ポイント(以下「GP」という。)」とは、成績評価基準において、各評価に対しあらかじめ付与された等級を表す数値をいう。

2 この規則において「グレード・ポイント・アベレージ(以下「GPA」という。)」とは、各科目にあらかじめ設定されている単位数に当該科目の成績に応じて GP を乗じ、これらの合計を履修単位数の合計で除して得られる数値をいう。

3 この規則において「学期 GPA」とは、学期毎に算出される GPA をいう。

4 この規則において「通算 GPA」とは、1年次からのすべての学期を通して算出される GPA をいう。

(成績評価基準)

第3条 成績判定は、平素の学修状況、学修報告、学習記録レポート、論文、試験等多様な要素の中から、それぞれの授業科目の形態、目標及び内容に応じて、できる限り複数を選択して行う。この場合において、レポートの課題設定や試験の内容に、受講及び受講のための学習準備を通して得られた学習成果が成績評価に適切に反映されるように工夫する。

2 評価基準は、次のとおりとする。

判定	評価	評点等	GP	評価基準
合格	S	90点以上 100点以下	4	学習到達度が特に優秀な水準で到達目標に達している。
	A	80点以上 89点以下	3	学習到達度が優秀な水準で到達目標に達している。
	B	70点以上 79点以下	2	学習到達度が良好な水準で到達目標に達している。
	C	60点以上 69点以下	1	学習到達度が到達目標に達している。
不合格	F	59点以下	0	学習到達度が到達目標に達していない。
	H	放棄	0	評価することができない。
認定	N	認定	対象外	成績の評価をせず単位の認定のみを行う。

(GPAの算出方法及び対象科目)

第4条 GPAは、各履修科目のGPに当該履修科目の単位数をそれぞれ乗じた数の合計を履修科目の総単位数で除して算出し、小数第2位を四捨五入し小数第1位まで表示する。

2 GPAは、合格した科目だけでなく、不合格(F)及び評価不可能(H)科目も対象とし、自由科目、教職科目、資格科目及びN評価科目は対象外とする。ただし、学校教育学科に限り、当該学科の教職科目は対象とする。

(GPAの変更)

第5条 F(不合格)又はH(評価不能)となった科目を、履修規程第23条に規定する再履修をし、SからCまでの評価がついた場合は、前条に規定する通算GPAは再履修後の数値に変更して計算する。ただし、それまでの学期GPAは変更しない。

(成績証明書の記載)

第6条 本学が発行する成績証明書には、GPAを記載しない。ただし、本人から希望があった場合は記載することができる。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<https://www.tsuru.ac.jp/uploaded/attachment/4003.pdf>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>○都留文科大学3ポリシーの中でディプロマポリシー(学位授与の方針)を以下のとおり策定している。</p> <p>「本学において学位を授与するに当たっては、下記の能力・素養を学生に求めます。</p> <p>1 課題発見・問題解決に向かう知性: 地域・世界、文化、そして自らが直面している課題を、人文学と社会科学が開拓してきた知見と思慮、さらに自然科学や情報学等の教養を活用することで認識し、ことばによって説明し、解決に向かうことのできる知性を有する。</p> <p>2 他者と連携・協働するための素養: 適切なコミュニケーションを通して多様な他者を理解し、連携・協働するために必要な素養を有する。</p> <p>3 健全な批判的精神: 既存の文化や理論、社会通念を多角的に検討し、建設的な批判と提案を行っていく精神を有する。</p> <p>4 永続的な探究の姿勢: 上記1から3の裏付けとなる学問を体得し、さらに生活者・実践者の観点からそれを深化し、探究し続ける姿勢を有する。</p> <p>その他、各学部・学科においても3ポリシーを策定し、その中でディプロマポリシー(学位授与の方針)を定めている。</p> <p>○全ての学部・学科において4年間の集大成として卒業論文を必修化し、都留文科大学学則に規定する修業年限(4年)及び都留文科大学履修規程に規定する卒業必要単位数及びを充足することにより卒業を認定している。</p> <p>【文学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国文学科：132単位(平成30年度入学生まで)、128単位(平成31年度入学生から令和5年度入学生まで)、124単位(令和6年度入学生から) ・英文学科：128単位(令和5年度入学生まで)、124単位(令和6年度入学生から) ・比較文化学科：128単位(令和5年度入学生まで) ・国際教育学科：124単位(令和5年度入学生まで) <p>【教養学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育学科：136単位(平成30年度入学生まで)、134単位(平成31年度入学生から令和5年度入学生まで)、124単位(令和6年度入学生から) ・地域社会学科：128単位(令和5年度入学生まで)、124単位(令和6年度入学生から) ・比較文化学科：124単位(令和6年度入学生から) ・国際教育学科：124単位(令和6年度入学生から) 	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.tsuru.ac.jp/site/daigakusyokai/334.html

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	都留文科大学
設置者名	公立大学法人 都留文科大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.tsuru.ac.jp/site/jouhou/316.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.tsuru.ac.jp/site/jouhou/316.html
財産目録	—
事業報告書	https://www.tsuru.ac.jp/site/jouhou/294.html
監事による監査報告(書)	https://www.tsuru.ac.jp/site/jouhou/295.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:公立大学法人都留文科大学年度計画 対象年度:令和6年度)
公表方法: https://www.tsuru.ac.jp/site/jouhou/296.html
中長期計画(名称:公立大学法人都留文科大学第3期中期計画 対象年度:令和3年4月1日~令和9年3月31日)
公表方法: https://www.tsuru.ac.jp/site/jouhou/311.html

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.tsuru.ac.jp/site/jouhou/296.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.tsuru.ac.jp/site/jouhou/296.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.tsuru.ac.jp/site/daigakusyokai/326.html)</p> <p>(概要) 都留文科大学の学訓「菁莪育才」の下、文学・語学・言語文化・比較文化を基軸とし、人文学 (humanities) の学習を通じて、人間存在の在り方や人間の文化的・社会的営為とその成果を深く理解し、論理的・創造的な思考力と豊かな感性を兼ね備え、文化・社会の未来と自身の将来を切り拓く能力を有し活かすことのできる人間の育成を目的とする。また、特に教員養成については、以上に加えて、深い子ども理解と確かな指導力に裏打ちされた豊かな学びを実現できる教師の育成を目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.tsuru.ac.jp/site/daigakusyokai/334.html)</p> <p>(概要) 都留文科大学文学部は、人間探求の理念のもと、人間の営為としてある文学、言語を基軸として文化・思想・芸術・歴史等を学び、日本文化と異文化理解を深め、国際的な視野をもつ人材を育成します。地域社会はもとより、国家、国際社会に至るまで、教育界、公共的な機関、企業等、多方面な分野に渡ってそのような人材は求められています。人間の生み出してきた価値ある創造への探求のあり様を学修することは、現在をとらえ直し、未来への価値ある道を切り拓く力を伸ばすものとなります。具体的には、卒業時まで以下に以下の能力を身につけた者に対して学位を授与します。 ○自分の専門に関する深い知識を有するとともに、その周辺領域や人間の営為全般にかかわる幅広い見識をバランスよく有することにより、人間が直面している諸課題を俯瞰的・構造的に理解することができる。 ○自身の知識に基づいて課題を多角的に分析・把握し、そのことにより課題解決への指針を提示し、具体的な実践・行動に移すことができる。 ○多様な文化の中にある人々の創造的営為と価値を理解し、現代における意味を伝えることができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.tsuru.ac.jp/site/daigakusyokai/334.html)</p> <p>(概要) 都留文科大学文学部は、人間探求力を育み、豊かな人間性と様々な分野で活躍できる能力を育むため、教育内容の整備や充実化につとめています。 ○共通科目は幅広い教養及び総合的な判断力を養い、豊かな人間性を涵養することを目的とし、「教養科目」「外国語科目」「体育科目」と「学部共通科目」を開設している。 ○学科専門科目は、専攻に関わる高度な専門の知識・技術・技能を身につけ、実社会で活躍するための能力の習得を目的とする。 ○学科専門科目の中には卒業論文が含まれ、在学中に身につけた知識・論理的思考力、調査能力、研究方法、構想力等を生かし、学修の集大成として卒業論文を完成する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.tsuru.ac.jp/site/daigakusyokai/334.html)</p> <p>(概要) 都留文科大学文学部は、文学・言語・文化についての考察を通して、人間探求の精神を培うべく、次のような入学者を求めています。 ○本学での修学に必要な高等学校基礎レベルの基礎知識、基礎学力を有している。 ○日本と世界の文学・言語・文化に関心を持ち、柔軟に対応できる理解力を持っている。 ○自分の考えを、明快な言語で表現できる。 ○他者とのコミュニケーションを通して課題解決を検討し、行動する意欲を持っている。 ○専門的知識を身につけようとする向学心を持っている。</p>

学部等名 教養学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.tsuru.ac.jp/site/daigakusyokai/326.html)</p>
<p>(概要) 都留文科大学の学訓「菁莪育才」の下、教育学・地域社会学を中心とする社会科学の学習を通じて、教育と地域社会の在り方や教育的・社会的営為とその成果を深く理解し、論理的・創造的な思考力と豊かな感性を兼ね備え、教育・地域社会の未来と自身の将来を切り拓く能力を有し活かすことのできる人間の育成を目的とする。また、特に教員養成については、以上に加えて、深い子ども理解と確かな指導力に裏打ちされた豊かな学びを実現できる教師の育成を目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.tsuru.ac.jp/site/daigakusyokai/334.html)</p>
<p>(概要) 都留文科大学教養学部は、「特定の分野での深い専門性と幅広い見識に基づいて、複雑な課題を解決するための新たな価値を創り出せる能力・姿勢」を「創造力につながる教養」と定義します。そして、「創造力につながる教養」を身につけ、活用することによって、社会の活性化や課題解決に貢献できる人材を育成します。具体的には、卒業時まで以下 の能力を身につけた者に対して学位を授与します。 ○自分の専門に関する深い知識を有するとともに、その周辺領域や社会全般に関する幅広い見識をバランスよく有することにより、社会の諸課題を俯瞰的・構造的に理解することができる。 ○自身の知識に基づいて課題の解決策を構想し、それを具体的な実践・行動に移すことができる。 ○実践・行動を具体的な課題解決に結びつけるため、多様な環境・文化の中にある社会のプレイヤーと適切なコミュニケーションをとり、信頼関係を築くことができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.tsuru.ac.jp/site/daigakusyokai/334.html)</p>
<p>(概要) 都留文科大学教養学部は、「創造力につながる教養」を育くみ、理論と実践を往還する教育内容の整備や充実化につとめます。 ○共通科目は「教養科目」「外国語科目」「体育科目」と「学部共通科目」により編成し、幅広い知的探求と問題発見、課題解決への能力と判断力を養い、「創造力につながる教養」を育むことを目的とする。 ○学科専門科目は、学科の専攻に関わる高度な専門の知識・技術・技能を身につけ、実社会で活躍するための実践的能力を高めることを目的とする。 ○学科専門科目の中には卒業論文が含まれ、在学中に身につけた知識・論理的思考力・研究方法、構想力・企画力等を生かし、学修の集大成として卒業論文を完成する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法 : https://www.tsuru.ac.jp/site/daigakusyokai/334.html)</p>
<p>(概要) 都留文科大学教養学部は、「創造力につながる教養」を培うべく、次のような入学者を求めています。 ○本学での修学に必要な高等学校レベルの基礎知識、基礎学力を有している。 ○日本と世界の社会・文化・自然に関心を持ち、それらにかかわる諸課題を幅広く理解している。 ○自分の理解したことや自分の考えを整理して分かりやすく他者に伝えることができる。 ○協働で課題を解決しようとする意欲を持っている。 ○専門知識を身につけようとする向学心を持っている。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法 : <https://www.tsuru.ac.jp/site/jouhou/347.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
文学部	—	15人	3人	4人	人	人	22人
教養学部	—	43人	20人	7人	人	人	70人
各種センター	—	7人	8人	2人	人	人	17人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長				学長・副学長以外の教員			計
—人				289人			289人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.tsuru.ac.jp/site/daigakusyokukai/349.html					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	240人	295人	123%	1,440人	1,713人	119%	若干名	5人
教養学部	490人	602人	123%	1,480人	1,733人	117%	若干名	5人
合計	730人	897人	123%	2,920人	3,446人	118%	若干名	10人
(備考)								

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	452人 (100%)	28人 (6.2%)	369人 (81.6%)	55人 (12.2%)
教養学部	367人 (100%)	23人 (6.3%)	320人 (87.2%)	24人 (6.5%)
文学専攻科	1人 (100%)	0人 (0%)	1人 (100%)	0人 (0%)
大学院 文学研究科	20人 (100%)	1人 (5.0%)	16人 (80.0%)	3人 (15.0%)
合計	840人 (100%)	52人 (6.2%)	706人 (84.0%)	82人 (9.8%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部 国文学科	146人 (100%)	120人 (82.2%)	15人 (10.3%)	11人 (7.5%)	0人 (0.0%)
文学部 英文学科	134人 (100%)	110人 (82.1%)	20人 (14.9%)	4人 (3.0%)	0人 (0.0%)
文学部 比較文化学科	144人 (100%)	115人 (79.9%)	22人 (15.3%)	6人 (4.2%)	1人 (0.7%)
文学部 国際教育学科	45人 (100%)	31人 (68.9%)	10人 (22.2%)	4人 (8.9%)	0人 (0.0%)
教養学部 学校教育学科	204人 (100%)	191人 (93.6%)	9人 (4.4%)	3人 (1.5%)	1人 (0.5%)
教養学部 地域社会学科	178人 (100%)	155人 (87.1%)	14人 (7.9%)	8人 (4.5%)	1人 (0.5%)
合計	851人 (100%)	722人 (84.8%)	90人 (10.6%)	36人 (4.2%)	3人 (0.4%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<p>○授業担当教員が決定され次第、以下の項目について授業担当教員が記載する。ただし、統一シラバスの場合は、科目責任教員が記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の到達目標及びテーマ・授業の概要 ・ディプロマ・ポリシー ・授業計画 ・評価方法 ・テキスト ・参考書 ・準備学習 ・オフィスアワー ・実務経験の概要 ・実務経験と授業科目との関連性

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)
<p>○以下の都留文科大学学則、都留文科大学履修規程及び都留文科大学における成績評価基準等に関する規則により実施している。</p> <p>○都留文科大学学則(抜粋)</p> <p>第6章 修業年限及び在学期間</p> <p>(修業年限)</p> <p>第14条 本学の修業年限は、4年とする。</p> <p>(在学期間)</p> <p>第15条 学生は、8年を超えて在学することができない。ただし、第21条若しくは第22条の規定により入学した学生又は第32条第1項の規定により転学部及び転学科した学生は、第23条(第32条第2項において準用する場合を含む。)の規定によりそれぞれ定められた在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学することができない。</p> <p>(卒業)</p> <p>第37条 学長は、本学に4年(第21条又は第22条の規定により入学した者については、第23</p>

条の規定により定められた在学すべき年数)以上在学し、第 28 条に規定する単位数を修得した者に対し卒業を認定する。

(卒業条件)

第 9 条 学生は、4 年以上在学し、次の表の所属の学部学科の区分に応じて同項に定める単位数以上の単位数を修得しなければならない。

学部名称	科目区分 学科名称	全学部共通科目				学科専門科目				選択科目	卒業単位数合計	卒業条件を定めた別表の規定
		教養科目	外国語科目	体育科目	全学部共通科目小計	学科の専門科目	共通専門科目	卒業論文	学科専門科目小計	選択科目小計		
文学部	国文学科	12	8	—	20	70	—	6	76	28	124	別表第 1 から別表第 4 まで、別表第 5 の 1
	英文学科	12	8	—	20	66	—	4	70	34	124	別表第 1 から別表第 4 まで、別表第 6 の 1
教養学部	学校教育学科	12	8	2	22	所属する系により 81 又は 85	2	4	所属する系により 87 又は 91	所属する系により 15 又は 11	124	別表第 1 から別表第 4 まで、別表第 7 の 1 から別表第 7 の 4 まで
	地域社会学科	12	8	—	20	58	—	6	64	40	124	別表第 1 から別表第 4 まで、別表第 8 の 1
	比較文化学科	12	8	—	20	58	—	4	62	42	124	別表第 1 から別表第 4 まで、別表第 9
	国際教育学科		12	8	—	20	54	—	4	58	46	124
IBEC コース		12	8	—	20	62	—	4	66	38	124	

○都留文科大学における成績評価基準等に関する規則（抜粋）

第 2 条 この規則において「グレード・ポイント(以下「GP」という。）」とは、成績評価基準において、各評価に対しあらかじめ付与された等級を表す数値をいう。

2 この規則において「グレード・ポイント・アベレージ(以下「GPA」という。）」とは、各科目にあらかじめ設定されている単位数に当該科目の成績に応じて GP を乗じ、これらの合計を履修単位数の合計で除して得られる数値をいう。

3 この規則において「学期 GPA」とは、学期毎に算出される GPA をいう。

4 この規則において「通算 GPA」とは、1 年次からのすべての学期を通して算出される GPA をいう。

(成績評価基準)

第 3 条 成績判定は、平素の学修状況、学修報告、学習記録レポート、論文、試験等多様な要素の中から、それぞれの授業科目の形態、目標及び内容に応じて、できる限り複数を選択して行う。この場合において、レポートの課題設定や試験の内容に、受講及び受講のための学習準備を通して得られた学習成果が成績評価に適切に反映されるように工夫する。

2 評価基準は、次のとおりとする。

判定	評価	評点等	GP	評価基準
合格	S	90 点以上 100 点以下	4	学習到達度が特に優秀な水準で到達目標に達している。
	A	80 点以上 89 点以下	3	学習到達度が優秀な水準で到達目標に達している。
	B	70 点以上 79 点以下	2	学習到達度が良好な水準で到達目標に達している。
	C	60 点以上 69 点以下	1	学習到達度が到達目標に達している。

不合格	F	59 点以下	0	学習到達度が到達目標に達していない。
	H	放棄	0	評価することができない。
認定	N	認定	対象外	成績の評価をせず単位の認定のみを行う。

(成績評価基準及び方法の周知)

第 7 条 各授業科目の成績評価の基準と方法は、シラバスに明記するとともに、各授業において説明し、特に、到達目標と評定との関係を、授業の内容に基づいて具体的に説明する。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	国文学科	令和 6 年度入学生 から：124 単位 令和 5 年度入学生 まで：128 単位 平成 30 年度入学生 まで：132 単位	㊦・無	令和 6 年度入学生 から：48 単位 令和 5 年度入学生 まで：64 単位
	英文学科	令和 6 年度入学生 から：124 単位 令和 5 年度入学生 まで：128 単位	㊦・無	令和 6 年度入学生 から：48 単位 令和 5 年度入学生 まで：64 単位
	比較文化学科	128 単位	㊦・無	50 単位
	国際教育学科	124 単位	㊦・無	64 単位
教養学部	学校教育学科	令和 6 年度入学生 から：124 単位 令和 5 年度入学生 まで：134 単位 平成 30 年度入学生 まで：136 単位	㊦・無	令和 6 年度入学生 から：48 単位 令和 5 年度入学生 まで：64 単位
	地域社会学科	令和 6 年度入学生 から：124 単位 令和 5 年度入学生 まで：128 単位	㊦・無	令和 6 年度入学生 から：48 単位 令和 5 年度入学生 まで：64 単位
	比較文化学科	124 単位	㊦・無	48 単位
	国際教育学科	124 単位	㊦・無	48 単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.tsuru.ac.jp/site/kyanapasuraifu/354.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部	国文学科	520,800 円	282,000 円 ※市内出身者は 141,000 円	22,660 円 ※学生健康保険 組合費 (学研災含む)	R6 年度より、比較文化学 科及び国際教育学科は文学部から教養学部へ学部 改編
	英文学科				
教養学部	学校教育学科	※R6 年度以降 の入学者は 535,800 円			
	地域社会学科				
	比較文化学科				
	国際教育学科				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) ・学生サポート室を設置し、相談員による履修相談を含めた修学指導を行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) ・学生一人ひとりが将来の自分像を見据え、どのようなキャリアを歩んでいくのかを主体的に考えられるように、1年次から就職オリエンテーションを開催している。また、段階的にキャリア形成が行えるよう、ガイダンスや採用試験説明会、就職体験報告会などを順次行い、教員・公務員・企業の志望別に試験対策講座や模擬試験、面接対策会等を実施し、学生自らが進路を選択し希望を持って巣立っていけるよう全面的にバックアップしている。 ・学年や学科に関わらず誰もが気軽に相談し、自らのキャリアを考えるきっかけとなるよう、キャリアカフェを開催している。また、個々に適切な指導を受けられるよう、個別相談室も設置しており、民間企業、公務員、教員と分野別に経験豊かな専門の相談員を配置し、常時個別面談を実施している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) ・保健センターにはカウンセラー、保健師が常駐。 ・定期健康診断の実施。 ・アルコール・禁煙等の健康保持増進等のための教育の実施。 ・学内での疾病やケガなどに対して応急処置及び医療機関の紹介、連携。 ・身体の悩みや症状に対して個別の健康相談、医師・助産師による健康相談の実施。 ・学生相談室にて進路、学生生活、学業、人間関係および心理的な悩みなどに対してカウンセリングの実施。 ・定期的に精神科医による学生相談事業の実施。 ・医療機関等の外部の関係機関との連携。 ・1年生、2年生に対してのストレスチェック及び発達障害関連の調査を実施しハイリスク者に対しての個別面接および継続支援。 ・障害学生支援について、相談（学生及び保護者）、ケース会議、教職員へのコンサルテーション、授業担当教員への合理的配慮の要請など実施。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.tsuru.ac.jp/site/jouhou/list157.html>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。